

2017年11月 1 日(水)

午後 1 時30分 開始

【秘書広報課長補佐】 お待たせをしました。

ただいまより平成29年11月市長定例記者会見を始めさせていただきます。

本日の会見の進行につきましては、お手元の次第のとおり、最初に市長の挨拶、その後、事業発表をいたします。質問につきましては、事業発表についてからお願いします。事業発表の質疑応答終了後に、次第の3番目、フリーの質疑応答へと進行したいと思っております。

なお、ご質問の際は、ご自席のマイクのスイッチを入れていただき、ご質問の後は切っておりますようお願いいたします。

終了は14時30分を予定しております。ご協力お願い申し上げます。

それでは、市長、よろしくお願いします。

【市長】 では皆さん、よろしくお願いします。

10月は台風がたくさん来まして、21号、22号と来ましたが、何とか無事に過ごすことができました。また衆議院の選挙もございましたが、つつがなく終わったというふうに感じております。今度の11月3日につきましては、市制施行80周年ということで式典を行わせていただきますので、またどうぞよろしくお願いします。

本日は、どうぞよろしくお願いします。

【秘書広報課長補佐】 次に、事業発表をお願いします。

【市長】 続きまして、事業発表ですけれども、4つございます。

1つ目は、敦賀市制施行80周年記念及び敦賀市教育月間事業としまして、ノーベル物理学賞受賞者の天野浩教授特別講演会の開催についてであります。

11月9日に敦賀市総合運動公園体育館にて、敦賀市制施行80周年記念及び敦賀市教育月間事業として、ノーベル物理学賞受賞者であります天野浩名古屋大学教授を講師とする特別講演会を開催いたしますので、ぜひともおいでください。

本講演会は、市制施行80周年を迎える節目の年に、市民の記憶に残り、本市の未来を担う子供たちが将来に大きな夢を抱くことができる事業を開催するというものであり、本事業の開催を通じて優秀な人材を育て、本市発展の基盤を強化することも目的としています。内容につきましては、ノーベル賞受賞者に関するお話や子供時代の思い出、夢、若者に向けたメッセージなどを講演いただく予定であり、主に小学校高学年を対象とした内容ですが、興味のある方はどなたでも参加が可能となっております。

ノーベル物理学賞受賞者という世界に誇れる偉業を上げた方のお話を聞ける貴重な機会ですので、市民の皆様にもぜひご参加いただきたいと考えています。どうぞよろしくお願いします。

続いて、2つ目でありますけれども、水素社会形成計画に向けた有識者会合の開催についてであります。

現在策定中の調和型水素社会形成計画につきまして、専門的見地から計画へのご意見等を伺う有識者会合を開催します。計画の骨子案について、技術的・経済的・社会的実現性等の観点から、水素エネルギーや地域経済発展の知見を有する学識経験者に議論をしてい

たきます。また、学識経験者だけでなく、水素エネルギーに携わる企業にオブザーバーとして参加していただく予定です。

日時は平成29年11月22日水曜日17時から19時で、場所につきましては東京なんですけれどもTKP東京駅日本橋カンファレンスセンター。委員の皆さんは、東京工業大学、伊原教授、早稲田大学の小野田教授、関根教授、エネルギー総合工学研究所の坂田部長、みずほ情報総研瀬戸口プリンシパルの皆さんです。

3点目ですが、弾道ミサイル発射を想定した情報伝達訓練の実施についてであります。

11月14日に福井県が弾道ミサイルの発射を想定した訓練を行うことに合わせて、敦賀市においても防災ラジオ、屋外スピーカー、T o n B oメールを用いた情報伝達訓練を実施します。当日は、ラジオと屋外スピーカーからは国民保護のサイレンとともにミサイル発射及び通過の訓練放送が流れます。T o n B oメールの登録者には訓練メールを配信しますので、どうぞよろしくお願いいたします。

最後ですけれども、平成29年度の除雪排雪計画についてであります。

11月15日から翌年3月31日を除雪期間として、除雪排雪計画に基づき実施します。除雪作業については、車道及び歩道の除雪を敦賀市土木協会、敦賀市管工事組合、造園組合、その他協力事業者に委託し実施します。

車道除雪は、通常の場合、積雪深が10センチに達した場合に出動し、深夜から早朝にかけて通勤通学の時間帯に間に合うよう午前7時ごろには作業を終える予定で実施しますが、大雪や明け方の降雪によりおくれる場合もありますので、ご了承ください。歩道除雪は、昨年同様、県と連携し、積雪深が20センチに達した時点で取りかかりたいと思います。

なお、今年度も敦賀市除雪機械購入費補助金の制度を活用し、除雪委託事業者が除雪機械を5台購入しました。今年購入の除雪機械を含め、効率的、効果的に除雪を実施してまいります。

排雪場所ですけれども、黒河川左岸ですが和久野橋下流及び敦賀市総合運動公園西側駐車場の2カ所を指定しております。

発表項目については以上でございます。お願いします。

【秘書広報課長補佐】 それでは、ただいま発表いたしました項目について質問を受けたいと思います。

最初に、幹事社さん、お願いします。

【記者】 まず、天野先生の講演会なんですけど、小学校高学年が主な対象とあるんですけど、平日のお昼過ぎの時間で、小学生は学校の授業の一環で来るんですかね。

【教育長】 そのとおりです。

【記者】 市内の全小学校の小学5、6年生が授業で来ると。わかりました。

次、水素社会形成計画の有識者会合なんですけど、これは敦賀市が主催するということですか。

【企画政策部長】 主催は敦賀市になります。

【記者】 この有識者会合というのは、この11月22日に初めて開催される会合なんですか。

【企画政策部長】 はい。初めてでございます。

【記者】 この委員で今後ずっと。

【企画政策部長】 はい。あと、今年度最低1回、あと来年度も数回の予定をしております。

す。

【記者】 毎回、東京でやるんですか。

【企画政策部長】 はい。基本的には東京。といいますのは、メンバーの方々がほとんど東京在住ということで、なかなか時間調整が難しいということもありますので、そういった関係でございます。

【記者】 承知しました。ありがとうございます。

【記者】 同じく水素社会のほうなんですけれども、これは委員の方の選定とかというのは随分前にされていたものなんですか。

【市長】 いろいろ相談して決めたと思いますので、経過については部長から。

【企画政策部長】 各委員さんにつきましては、水素エネルギーの関係の有識者ということで、委託業者等を通じましていろいろ検討して選考を進めてまいりました。

【記者】 いつごろ委員のメンバーが選定されて、何委員のメンバーとえばいいですか。

【企画政策部長】 冒頭にあります水素社会形成計画、調和型の水素社会形成計画の有識者会合という形です。具体的に何月からといいますのは、個別に交渉していますので、夏以降という形になると思います。

【記者】 これはいつごろまでにこういう報告書をまとめてとか、そういった予定はどういうふうになっているんですか。

【企画政策部長】 策定期間が計画の30年度までですので、それを目途としまして進めていきたいと考えております。

【記者】 ありがとうございます。

【秘書広報課長補佐】 それでは、各社伺います。発表項目につきまして質問がありましたら挙手をお願いします。

【記者】 水素社会形成計画に関してなんですが、この有識者会合で議論する内容の中に、水素関連の研究機関の方向性があるんですが、これは、もんじゅの廃炉に関して、政府に対して国の研究機関を設置するようにと要望されている、それに関することと捉えればいいんでしょうか。

【市長】 いや、そうじゃないんですけれども。お願いします。

【企画政策部長】 それも含めましてという話になってまいりますので。

【記者】 今後、国との交渉でそういう方向性が出れば、そういう研究機関の具体化をしていくような、有識者会合で具体化していくような話になるということですか。

【企画政策部長】 ええ。参考にしまして、ご意見として賜りまして、そういったものをまた国との交渉、折衝の中で用いたいというふうに考えております。

【記者】 わかりました。

【市長】 この中では調和型水素社会形成計画の骨子案をご説明して、それについてご意見等をいただいて、また将来の水素関連の、どういうふうにしていったらいいかということをお聞きしながら進めていくという形で、かちつとしたものでなくてという形になると思います。

【記者】 委員のメンバーなんですけれども、それぞれ水素関連の当然専門家ということでもいいんですね。どういった専門なのか、それぞれわかるなら教えていただきたいです。

【企画政策部長】 委員のプロフィールにつきましては、別途、別紙用意してございます

ので、後でご配付させていただきたいと思います。

【記者】 あと、オブザーバーに参加する予定の企業とかも、わかれば教えてもらっているんですか。

【企画政策部長】 企業名につきましては、まだ具体的に決まっておりません。今、打診している段階でございまして、決まり次第、またお伝えできるのではないかというふうに考えております。

【記者】 それは22日に参加する可能性があるということですか。

【企画政策部長】 ございます。

あと、国の機関としましては、資源エネルギー庁さんのほうに誰かということをお願いをしております。

【記者】 市長にお聞きしたいんですけども、水素の関係なんですけど、ようやくというか今回初めて有識者会合ということで、今後どうなるか、有識者の方の意見をお聞きするということですけども、この有識者会合を通して、敦賀市が目指している調和型水素社会、どういうふうにこの会合の意見を生かしていったら、今後の敦賀市の水素社会形成に生かしていきたいかというような思いをお聞きできればと思います。

【市長】 私にということなので。

調和型水素社会形成計画というのをつくっていく上で、どちらの方向に進んでいったらいいかというのがいまいちはっきり見えない状況だと思いますし、道筋をちゃんとつけないうとたどり着けない可能性もありますので、そこを有識者の方々にご意見をいただきながら考えていきたいというふうに思っていますので。今、どちらの方向に行くかということは何とも言えないんですけども、敦賀版の水素社会の形成ということで、エネルギーサプライチェーンの構築ということを目指す上での有識者会合ということになるかと思います。

【秘書広報課長補佐】 ほかにいかがでしょうか。

それでは、次第の3番目、フリーの質疑応答へと行きたいと思います。こちらも幹事社さん、お願いします。

【記者】 衆院選のこと。終わったんですが、お伺いしたいんですが、福井2区で斉木武志さんという方が、選挙区では落選されたんですが比例復活されてまして、やはり新たな国会議員がもう一人、高木先生以外にできたというのは敦賀市にとってもありがたいんですかね。

【市長】 関係する国会議員さんがふえるということは非常に大切なことだと思っていますので、プラスに捉えております。

【記者】 選挙後に市長と斉木さんは、何か連絡とかはとり合っているんですか。とり合ったことはありますか。

【市長】 選挙の後に東京に行く機会がありましたので、衆議院、参議院それぞれ会館は行きましたけれども、衆議院の先生の皆さんはまだ会館のほうに来られていませんでしたので、今はお会いしたことないです。連絡はとってないです。

【記者】 全くとってないですか。

市長、詳しくご存じじゃないかもしれませんが、斉木さんは選挙戦の期間中に、敦賀を含めた嶺南地域に原発にかかわって電気自動車のパーツの工場を国策で誘致するというのを

盛んに訴えていらっしゃったんですが、敦賀市は、先ほどの話にもありますように水素社会を目指すという方向ですが、具体策は違うんですが原発にかわる産業という面では一緒なんです、電気自動車のパーツを誘致して成長産業をつくるという意見はどう捉えていますか。

【市長】 私の中では産業の複軸化というのは非常に大事だと思っていますので、それについてはプラスのご提案だというふうに思っています。ですから、今は私ども水素社会をやっていますけれども、エネルギー、そういう電気自動車でも、それについては敦賀で事業をもししていただけたところがあれば非常にうれしいと思っています。

【記者】 特に敦賀市として、具体的に電気自動車の部品工場の何か調査とか、そういうのをやっているわけではないですよ。

【市長】 そういうわけではなくて、斉木先生が思われておっしゃったのだと思いますので。

【記者】 全く寝耳に水ですか。

【市長】 こちらにニュースソースがあるわけではないです。

【記者】 そうなんですか。

どうですかね。実現性はあるんですかね。可能性は。電気自動車。専門の部長でもいいんですけれども。

【市長】 それは斉木先生がおっしゃただけなので、後ろがどのぐらいあっておっしゃっているかわかりませんし、どれだけの力を持っていらっしゃるかわからないので、それは私ども答えられないと思います。

【記者】 そうですね。政権とれなかったですしね、希望の党は。わかりました。

あともう1点、ごみの裁判なんです、樞曲の。相手方の岡山県の自治体が1審の判決を受け入れると表明されたようなんですが、敦賀市は控訴されましたけれども、続けていく方針は変わらないですか。

【市長】 はい。続けていく方針は変わらないです。

【記者】 あともう1点いいんですかね。もんじゅについて、選挙は終わりましたけれども、何か特段動きはありますか。廃炉計画の申請などについて。

【市長】 今、特段の動きはないんです。

【記者】 関連協議会とか、何か地域振興策の会議とかの予定も入ってないですか。

【市長】 国会の日程とかがあると思いますので、今はわかりません。ごめんなさい。

【記者】 何もじゃ予定はないということですか。

【市長】 ないです。

【記者】 わかりました。以上です。

【記者】 もんじゅと同じく、ふげんのほうの進捗状況について、今年度中ということなんですけれども、その辺のスケジュール感というか、お願いします。

【市長】 とりあえず今、何もありませんので、事業者からアクションがあるというふうに思っています。

【秘書広報課長補佐】 それでは、各社伺います。ご質問ありましたら挙手をお願いします。

【記者】 今日、第4次安倍内閣の発足ということで、従前と顔ぶれは変わらないですけ

れども、改めて、全原協の会長として求めたいエネルギー政策についてお願いします。

【市長】 全原協の会長としてということで、エネルギー基本計画の見直しの時期にありますので、きちんと将来を見据えたエネルギー方針というのを出してほしいというふうに思っております。

【記者】 そのエネルギー基本計画の見直しなんですけれども、新增設が盛り込まれるかどうかということについて、市長としてはどのようにお考えですか。

【市長】 私としましては、再稼働に一生懸命努力されていますけれども、やっぱり新增設、リプレースができれば、そちらのほうが安全性も高まると思いますので、新增設、リプレースも含めた計画ということを練ってほしいなというふうに思っています。

【記者】 杉原リストが世界記憶遺産から漏れまして、敦賀市、直接は関係ないんですけれども、人道の港というのを大きくPRできる機会を逸してしまったとは思うんですけれども、それについて何かお考えというか感想がありましたら。

【市長】 頑張っていたので、私らも応援していましたので残念だと思っています。大迫さんのアルバムとかもありましたから一緒に使ってもらえれば、敦賀で使えるものがあつたらどうぞ使ってくださいということも伝えておりましたので、うまくいったらいいなと陰ながら思っていたので、非常に残念だと思っています。

【記者】 今後、一緒に申請することとかはあるのでしょうか。

【市長】 報道を見ましたら白紙と書いてありましたので、あちらとのまたお話をして、どういうくりにするのかとかどんなことを考えるのかというのは、これからのことだと思います。まだ今はあちらが白紙なわけですから、ないです。

【記者】 発表項目の除雪排雪計画のほうなんですけれども、この下にある数字で昨年度の分と何か変わっているものがあれば教えてください。

それと、昨年度はかなり除雪が遅いであるとかそういった苦情が多かったと思うんですけれども、何件ぐらいそういった苦情があつたのでしょうか。

【市長】 じゃ、部長のほうから答えます。

【建設部長】 件数については、即答できませんので、後で報告します。

除雪の内容については、各社さんにお配りした中で去年と違うところと申し上げますと、例えば(1)番の委託については、前年度は81社でございましたが79社。除雪作業機械の集計でございしますが、これも3台減りまして175台でございします。路線は0.2キロふえまして384.5キロ。これが車道分。歩道分が変わらずで41.9キロでございします。路線数も変わってございします。3路線がふえているというところでございします。

ただ、ここには書いてございせんけれども、消雪・融雪整備につきましては今年度約760メートルがふえるというところで、整備延長が約24.8キロございします。

以上でございします。

【記者】 この前、台風で笙の川がまた物すごくあふれそうになっていましたけれども、管轄は国かもしれないんですけれども、その支流の川とかも含めて何かされるお考えとか、どういう対策がとれるとか、何かありますか。

【市長】 笙の川につきましては、計画を事業化していただきましたので、それについての生態系とか河道調査をやっていると聞いています。来迎寺橋を第一に整備してもらおうということに取り組んでいます。

その他の部分につきましては、ゲリラ豪雨とか有害鳥獣なんかで土砂が流れ込む量がふえたのではないかというふうに思っているんです、上流のほうで。そういうことに対しての対応をとっていただこうとして、北信越の市長会とかそういうところで、そういうゲリラ豪雨とか有害鳥獣を含めて上流の河川の整備をしていただけないかということを要望しています。ただ、具体的に今何ができるというわけではないです。

【記者】 今の発言で土砂が流れるとおっしゃった理由をもう一度お願いします。

【市長】 有害鳥獣で山肌が荒れるのと、ゲリラ豪雨で大きな雨が集中的に降るので、土砂が流れ込むんだらうというふうに思っています。

【秘書広報課長補佐】 ほかにいかがでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、これもちまして11月の市長定例記者会見を終わらせていただきます。

ありがとうございました。

午後1時55分 終了